

アマダイ通信NO. 106

(Tile fish network letter)

2015年紫蘭咲く

知人・友人各位

50歳で営業コンサルタントとして独立して68歳。本郷に事務所を構えてからでも15年。お陰様で色々な方々のお力を借りて、顧問先の要望を実現、どうにか生業を立てる。13年前に、リンパ腺6か所に転移、ほとんど治癒する見込みなしのステージⅢb、余命半年の大腸がんを手術、まだ元気だ。毎週末千m泳ぎ、仲間と冬場はほぼ毎週末交通費割勘の日帰りスキー、夏場は隔週でカートに乗らず歩くゴルフ。毎晩酒を楽しむ。親に勉強しろと言われたことがなく、日が暮れるまで海、山で遊ぶことで鍛えられたタフな肉体だと思うが、先日遂に救急車のお世話に。読者の皆さんも若い方が増えた。いずれ来る、老いるということ、心身の経年劣化、加齢が如何なるものか？多少とも参考になればとも思う。

◎生まれて初めて救急車を呼ぶ

寒の戻りということで、急に寒くなった、小学校の入学式の日、若いスーツ姿の両親に挟まれ、最近海外でも人気という大きなランドセル姿のピッカピッカの新一年生。自分の名前を書けないのはお前だけだ！近所の子は皆書けていると、入学前夜も親父に叱られ、「特訓」を受けながらも自分の名前すら平仮名で書けなかった劣等生の革ちゃんが、この時期になると懐かしく思いだされる。

娘が二人目の男の子を出産する前後から、一年後にピッカピッカの一年生になる孫娘を保育園に連れて行くことから、🍀の一週間が始まるが、京都、大阪出張予定の木曜日の朝、前日の昼から少し胸苦しい、息苦しい状態が続き、夜知人と飲んでいる時も、目が覚めてからも同じ。ネットで狭心症や心筋梗塞を検索、開胸手術を受けた知人にも電話相談。119番し症状を話すと、直ぐ救急車が来る。掛り付けのお茶の水の三楽病院は遠いからと、築地の聖ルカ病院で心電図、超音波、レントゲン、血液検査。胆管結石も含め全て異常なしということで解放されるが、出張は取り止め、大事を取って、事務所で大人しくする。

土曜日の朝、体重計に乗ると何と？？年振りに69.6キロ。13年前にステージ3b、ほとんど治癒する見込みなし（岩波新書「胃がんと大腸がん」）の大腸がんで開腹手術後、74キロまで増えた体重が初めて70キロを切る。金曜日の夜も結構飲んだのだが、会食しない昼はよく、本郷三丁目に出来た子諸そばで、もりそばを生卵入りのつゆで食べる（240円+40円）「粗食」が効いているのか？粗食とは言え、子諸そばは立ち食いそばでは出色。たまに入る富士そばよりも安くて美味しい。子諸そばが出来てから入ったことのない事務所の下ゆで太郎は撤退した。土曜日は気を良くして千m泳ぎ、経済誌を読む。

その後体調も悪くはないが、三楽病院であらためて内科医の検診を受け、心電図も撮るが異状なし。食道や喉の辺りも異状はない。体を傾けたり、ランニングマシンの上に乗った状態での心電図、超音波検査も、専門医による診立てはまだだが、検査技師によると異状なしという。息苦しき、胸苦しきは加齢による体調不良ということか？次代が輝きを増せば、ロートルは役目を終えて消えて行く。元気に働き、学び、飲み食いし、泳いだり、

ゴルフやスキーをしていますが、人生には終わりがある。そのことを教えるシグナルか？

◎鱈乳根に出遭う

3月末、久しぶりに故郷秋田に出張。日本で一番木材を輸出する顧問先の阪和興業によれば、2、3年前に10万立米だった日本の木材輸出が、大分、宮崎を中心に、円安もあって50万立米に急伸するが、日本屈指の林業県の秋田、木都を称する能代からの輸出はない。県庁で同学の後輩で経産省出身の橋口副知事に、農林水産部の橋森林技監を紹介して貰う。林野庁から出向の技監によれば、日本から輸出される木材は建築現場の足場などに使われる質の悪いC材が多いが、秋田県には製材工場や合板工場が多く、太くて直なA材が建材に、次のB材が針葉樹合板に、C材がチップやバイオマス発電に使われ、輸出に回せる分はないという。斉藤能代市長によると、林道の整備が遅れ、山からの搬出コストが高く、輸出出来ないとのことだったが、多分両方の事情が相まっての現状なのであろう。

円安で外材が高くなり、国産材の需要が高まっているが、円安で推移すれば海外での需要はまだ増える。杉中心だが内装材や柱としての国産材の良さをアピールすれば、足場などの仮設資材としてだけでなく、建材としても需要が伸びる。A材の利用が増えれば、B材、C材としての利用も増え、輸出も増える。そのためには林道の整備も必要だということか。林業、木材産業が元気になれば雇用も、所得も増え、人口減対策になる。

県庁を辞し、秋田駅前の市民市場にタクシーを走らせる。能代で泊まったべらぼう川床で朝食に出た日本海の冬の珍味、鱈子のキンピラと鮫の酢の物が懐かしく、美味しかった。鮫は水揚げ後少し時間が経つとアンモニア臭が酷くて食べられないが、捕れたては刺身で食べられる。さっと湯通し、大根おろしと酢の物にしても美味しい。鮫は無理だが、鱈子なら秋田駅から直帰すれば、生のまま持ち帰れる。1mは優にある真鱈が大きなお腹を突きだして魚箱からはみ出し、2枚に開いた艶やかな白身と大きな鱈乳根が赤く氷の上に横たわる。こんなに大きいじゃ食べきれない。根元で繋がった2房を真ん中で切って貰い、650円払う。ついでに酢の物のナマコと、茹でたてのギバサ(ホンダワラの若芽)と塩鯨も買う。ギバサは酢の物にすれば日本酒が美味しい。油身を黒い表皮と一緒に塩漬けた鯨は塩出しして短冊に切り、茄子や玉ねぎと味噌汁にした鯨の貝焼き(かやき)が美味しい。

夕方来客と飲みに行くことになっていたのでも、取り敢えず事務所の冷蔵庫に入れて保冷剤も替え、鱈乳根を持ち帰らなければいけないからと、本郷三丁目で飲む。帰宅後、猟奇殺人犯もかくあろうかと、大きな真鱈のオッパイを、暗い台所で4つに切り裂き、それぞれビニールに小分け、3個は冷凍、けさがきのごぼうと人参、シラタキを鱈子と炒めて、お酒の友とする。

◎増える外国人スキーヤー、雪遊び客

5月の連休の26日、スキーは初めての香港からの交換留学生ホウ君と、スキー経験のある1年生の福永君、荒井さんと、4日、5日は5才の孫娘とガーラ湯沢で名残のスキーを楽しみシーズンを終える。ホームコースの奥利根の宝台樹を含め、結構雪山に足を運んだが、昨シーズン以上に外人客の姿を見かけた。正月の越後湯沢の岩原スキー場でも、同年代の猫顔の肝っ玉ばあさん夫婦の食堂「山しん」で、モツ煮かけうどんを肴に缶ビールショット缶一本と地酒の緑川一杯引っかけ山頂へ。リフト上でウラジオストック産のルシアン、

アメリカ生まれ、フランス育ち、イギリスのウスター大学卒の国籍不明人と片言の英語と日本語で会話を楽しむ。(経済制裁と原油価格下落で)プーチンさん大変ですねと水を向けると、日本滞在が長いというロシア人は、こんな時は国民も団結するし、大丈夫ですよと、えらい自信。確かにエリツインの頃のどん底に比べれば、ロシアはまだ遥かにましだ。日本で金融業に携わっていたという国籍不明人は、リーマンショックで仕事を止め、まだ無職とのことだが、和風にデザインされた真新しい新型、ロッカーのスキーを、接雪面が少なく、曲がり易く、新雪、悪雪にはいいけど、圧雪されたコンディションのいいゲレンデでは不安定ですよ、両方いいのはないですねといい、あれが3歳の我が子ですよと、スキーを履いた白人の男の子をストックで指す。羨ましいがよほどストックがあるらしい。

翌朝はガーラ湯沢へ車を走らせるが、駐車場満車。国道を戻って、遠い駐車場からシャトルバス。11時頃から滑り始め、二時間ほどでリフト11本、ゴンドラ2本乗る。2キロ半のロング下山コースをノンストップで2回、山頂からの滑降含め全コース無転倒で制覇。話す機会はなかったが、外人スキーヤーが結構いて、頭にスカーフをした女性や乳母車を押す者もいる褐色の肌の一団もゴンドラ乗場にいる。インドネシアから来られたんですか?と英語で尋ねたら、マレーシアからですと、日本語が返って来る。湯沢の温泉旅館に泊まり、温泉と和食、山頂からの雪景色と雪遊びを楽しもうという訳だ。次の冬季オリンピックは韓国の平沢、その次は北京だが、北京の人達も気軽にスキーを楽しんでいるのだろうか?2022年の冬季オリンピック、北京でスケート、石家口でスキーをする計画がニュースになる。1972年に札幌で日本初の冬季オリンピックが開催された時は、スキーやスケートは大衆的娯楽・スポーツで誰もが気軽に楽しんでいたが、北京ではまだ一部の金持ちの楽しみでしかないようだ。「一億総中流化」を言われた日本経済の高度成長と「先富論」に基づく、格差の大きな中国経済の高度成長との違いでしょうか?

NHKのクローズアップ現代で「爆食中国に買い負ける日本」を見る。中国の経済成長につれ、鶏、羊、豚肉中心だった中国で、牛肉の消費が爆発的に増え、世界中で牛肉が値上がり、ショートプレートという牛丼などの外食で使う部位を中心に、日本の商社は牛肉の買い付けで負けているだけでなく、中国での牛の飼育も増え、飼料として大豆の輸入が増えた結果、味噌、豆腐の原料になる大豆の値段も高騰、日本の輸入量も減っている。結果ブラジルのセラードと呼ばれる広大な草原地帯が大豆畑に転換され、深刻な環境破壊と乾燥・水不足をもたらし、ニュージーランドでは羊の放牧場が牛の牧場に変わり、オーストラリアでは水不足を補うために海水を淡水化して灌漑することまでしているという。如何にも石炭が豊富で発電コスト、海水淡水化コストの安いオーストラリアらしい。

NHKの美人キャスターは、このまま中国の爆食が続けば日本人は牛丼も焼肉も、味噌も豆腐も、納豆も食べられなくなると危機感を滲ませていたが、美味しい牛肉を食べる権利は日本人だけにある訳ではない。味噌、醤油も然り。より多くの地球上の人々がより豊かになり、多彩な食生活を楽しめるのは素敵なこと。日本人も豊かになることで、鮪を、鰻を、海老や蟹を、数の子やイクラを世界中から集め、誰もが堪能出来るようになった。樂園に通じる蜘蛛の糸は日本人だけのものではない。牛は育つために大豆などの飼料を必要とし、大豆は水なしに実らない。幸い日本は四界を海に囲まれ、水資源が豊富。全ての中国人に美味しい牛肉を食べさせられるほど国土は広くないが、その狭い国土さえ減反やら耕作放棄やらで十分には利用されていない。少ない食料を、資源を奪いあうのではなく、

アジアが豊かになり、人々の購買力が高まっているのだから、有り余る水資源と見棄てられた農地を生かし、世界に貢献する工夫が必要だ！

◎覇権国家アメリカの後退と日本の「普通国家化」

ソ連の解体による冷戦体制崩壊で覇権国家アメリカの世界一極支配が確立、世界はアメリカ資本主体の多国籍企業を中心とするグローバルな資本主義経済へと移行したかの観があったが、冷戦体制の崩壊と「改革開放政策」でニューフロンティア化した中国に、安い労働力と市場を求め、グローバル資本が殺到した結果、中国は世界の工場に発展、急激な経済成長を遂げ、経済力を裏付けに軍事力も強化、海洋に覇を求め、大国主義丸出しで、南シナ海のみならず、太平洋の二分割をアメリカに求め、インド洋への進出も図る。

かつて中国は改革開放後の自国の経済システムを「社会主義市場経済」と称し、国家体制を「社会主義国家」と規定していたが、最近では「社会主義」を冠することが少ない。一国的な規模で実現可能かは意見の分かれるところだが、社会主義とは一般的には生産手段を共有し、その民主的な経営によって自由平等な社会の実現を目指す、政治及び経済理論だ。又、1917年のロシア革命の成功でソビエト連邦を樹立したレーニンが、世界革命基地としてのソ連存続のために、戦時下の窮余の策として打ち出した計画経済と共産党による独裁を付け加える者もいる。中国が社会主義を語ることが少なくなったのは、マルクスの唱えた社会主義の目指す「自由平等な社会」とは似て非なる格差社会、人権抑圧社会に中国が変質し、引き返すことが出来ない地平に来てしまったということだ。

変わって自らの正統性を主張し、共産党支配を維持するために習近平共産党主席が打ち出したのが、愛国主義、中華民族主義である。1949年、毛沢東が指導する民族・民主革命によって新中国は成立した。その際の「民族」とは、帝国主義列強の侵略から中国を解放することで、「民主」とは地主や軍閥、買弁資本の独裁から中国国民を解放するということだ。他国の領域まで牛の舌の様に触手を伸ばし、その領土を掠め取るのではない。民主という観点からすれば、漢民族以外の少数民族が民主的な手続きで自主・自律を求めるなら、自治・独立を認めるということだ。👉が足を運んだ新疆もチベットも、中国は実効支配するというが、とりわけチベットのラサでこの目で見た漢民族によるチベット支配は、暴力的な独裁であり、民主的な手続きに則った、平和的な実効支配とは言えない。チベットの首都ラサの、いわば銀座通りとも言うべきポタラ宮からジョカン寺に続く大通りに3、40m おきに背中合せの4人の武装警察官が、実弾をこめた自動小銃を市民に向けて構え威嚇する。これが住民の意思に基づいた実効支配と言えるのか？

軍事大国化した中国はまさに新疆やチベットと同じような手段で周辺諸国を屈服させ、アメリカと太平洋を二分して覇を争おうとする。第二次大戦後覇権国家として世界の覇をソ連と争い、ソ連の解体で唯一の覇権国家となったかに見えたアメリカも、ベトナム戦争で敗退、アフガンでも、イラクでも勝利できず、体力を消耗し、中国の挑戦を受ける。あの「豊かな社会」アメリカでさえ、覇権を行使し続けることは出来なかった。まして、内なる矛盾を転嫁するためにも、外に覇を唱えなければならない中国の「覇権」は長続きするものではない。経済の高度成長で格差が拡大しても、底辺の生活水準も多少は上がることで、不満をギリギリ抑えることが出来たが、成長率が落ち始めた今、それは可能なのか？ 社会が流動化、不安定化し、外には強面で向かう時、成長のための資本を呼び込めるか？

通貨高で労働コストも上昇すれば、世界の工場の地位を失うが、産業構造の高度化で切り抜けることが出来るのか？

体力の消耗したアメリカは日本を引込み中国と対抗しようとし、安倍政権は日本を戦争も出来る「普通の国」にすることで、応えようとしている。しかし、少子化・高齢化、人口減少が続き、経済力低下が危惧される国が、体力の低下する覇権国家の意のままに、それを補完するために軍備強化に走ることが、国民の福祉の維持、向上に資するのだろうか？

🐉のモンゴル紀行Ⅳ（クラブツーリズム、「週末気軽にモンゴル」、2014.05.02～05）

⑧ 番外編Ⅰ）新空港

新空港の工事は日本の三菱商事と千代田化工が500億円で受注、韓国サムスン建設を下請けで使い、9割が日本のODAで、1割がモンゴル政府の負担。モンゴルの年間予算の1割に当たる。年間予算500億円と言うと、人口10万人クラスの日本の市の予算規模と言う。

6つの搭乗口を備えた小松空港クラスの国際空港が出来る。国交省の航空局長を経験した友人によれば、大型機も飛べる新空港が出来ても、韓国航空なら、モンゴル便単独では採算が取れなくても、小型機で仁川に運んだ近隣各国の客を行先別にまとめて、大型機で欧米に運んで採算を取る。人口の少ない韓国では、韓国単独では採算を取りにくい路線をそのようにして維持しているとも言える。

だが1億3千万の人口を擁する日本ではそこまでする必要はない。だから日本の援助で新ウランバートル空港ができて日本ーモンゴルの直行便単独で採算が取れないと、日航も全日空も相変わらず飛ばないのではないかと問う。

⑨ 番外編Ⅱ）野菜と平和

中国で、ウクライナで、中東、アフリカで、そしてタイで、キナ臭い事件や戦乱が続きます。貧困、格差、抑圧が続く限り、混乱は続きます。敗戦直後に生まれ、戦後と共に成長して来た🐉は、食べるのがやっとだった貧しい日本が、ここまで豊かになったのに目を見張る。冷戦体制下の限定されたものだったとは言え、平和な状態が半世紀以上続き、国民が一丸となって経済復興に専念出来たからだ。何より、平和と民主主義。

帰国後の一夜、酔っ払って帰宅、7チャンネルで懐かしいウランバートルの風景を見る。群馬の農業生産法人が、ジャガイモ、人参、玉ねぎしか野菜が出来ず、遠路中国から鮮度の落ちた、農薬漬けの野菜や果物を輸入するモンゴルで、日本式の温室農業を始め、新鮮で安全、安心で美味しい野菜の供給を始めたという。

ウランバートルのモンゴルしゃぶしゃぶ屋で、モヤシ、椎茸、ほうれん草などの新鮮な野菜もたっぷり味わった。あれが、戦後日本農業の数珠の結晶だとしたら、素晴らしい。中国産の倍の値段でも売れるという。水不足のモンゴルで、農業用水の確保は大変だろうが、モンゴルでも平和が続き、新鮮で安全・安心、美味な野菜や果物をモンゴルの人々にも味わって貰いたい。(完)

🐉アマダイのミャンマー紀行Ⅰ（クラブツーリス「全日空直行便で行く！

気軽にミャンマー黄金の仏教国4日間」2014.08.15～、)

① プレマンミャー紀行・・ミャンマーの人々の生活が見えない！

300 頁近くのハードカバー、「ミャンマーの黎明・・国際関係と内発的変革の現代史」(津守滋元ミャンマー大使・彩流社)をようやく読み終え、二冊目の「イラワジの赤い花・・ミャンマーの旅」(中上紀、集英社)を読み始める。「全解説・ミャンマー経済・・実力とリスクを見抜く」(みずほ総合研究所編著、日経新聞出版社)まで進めるか？ミャンマーツアーまで 10 日。

「イラワジの赤い花」は事実の記述が少なく、著者の評価、感傷だけが表に出て、ミャンマーの人々の生活が見えて来ない。これでは予習にならない。幸い、土曜日に「ミャンマーの黎明」を返しに行った豊洲図書館で、「ミャンマー滞在記・・日本語教師の見たミャンマー」(福田美鈴、文芸社)を借りる。こちらの方が勉強になる。「全解説・ミャンマー経済・・実力とリスクを見抜く」(みずほ総合研究所編著、日経新聞出版社)も引き続き借りる。「ミャンマー滞在記」を面白く読み進む。ミャンマー社会の様子が良くわかる。お寺には裸足で入らないといけないし、インドやベトナムではスクールが来ると、くるぶしどころか膝下まで水に浸かった。ミャンマーでも靴は余り役に立たないようだ。

顧問先の社長との会食が、経理上のトラブル発生ということでドタキャンに。事務所から御徒町まで運動がてら歩き、松坂屋の地下で弁当を買う。アメ横の入口に ABC マートの看板を目にし、ナイキのゴム草履を買う。「ミャンマー滞在記」を読み終え「全解説・ミャンマー経済」に取り掛かる。旅行先の歴史や文化、国情を予習するのに最適の「〇〇〇を知るための??章」のミャンマー版を明石書店がまだ作っていないのは残念だ。日経 BP の「旅名人シリーズ」、中公新書の「物語ミャンマーの歴史」も是非刊行して欲しい。

② 急速に変わる辺境、ミャンマー

新たなる市場、フロンティアを求め、侵略と戦争を繰り返して来た資本主義というシステム。今、資本は新たなるフロンティアを求めミャンマーへ殺到している。この夏は辺境ミャンマーへ 2 泊 4 日の弾丸ツアー。印旛沼の辺り、スカイライナーは直線の鉄道を、車体を揺らし、11 時のフライト、8 時半の集合に 40 分遅れの✈️を乗せて成田へ疾走。旅の始まりはおにぎりからとの気分になり、昼の機内食を待たず、京成上野のコンビニで買った銀鮭のおにぎりを美味しく食べる。北の瑞穂の国から、南の瑞穂の国へ！

全日空がミャンマー直行便を始めた 2012 年の秋は確か、38 席全部がビジネスクラスだった筈。今回のクラブツーリズム「全日空直行便で行く！気軽にミャンマー黄金の仏教国 4 日間」、添乗員もつかない格安ツアーが、ビジネスクラスで飛ぶ筈がないので、エコノミークラスもある、普通の路線になったということだ。タン・シュエの剥き出しの軍政から、2011 年、軍部の衣替とは言え、ティン・セイン大統領の下で民主政権に移管、政治犯釈放、メディア検閲廃止などの民主化、対外解放、少数民族との停戦・民族和解が急速に進み、アウン・サン・スウ・チーの指導する野党 NLD (国民民主連盟) が 2012 年の補欠選挙で、45 議席中 43 議席獲得という圧倒的勝利で国会に議席を占め、欧米先進国による経済制裁も緩和され、東南アジア最後のフロンティアを求め、欧米、日、中、韓の資本が殺到している。オフィスやホテルが不足、家賃が高騰、部屋代も最高 1 日 3 万円に制限されたとも聞くが、格安ツアーが催行されるというのは、多少ホテル事情も改善されたのだろうか？そんなことを考えながら、タラップを登る。

空席が目立つが、ビジネスが 30 数席、エコノミーを含め 200 席だという。客はほとんど日本人。好奇心旺盛な●にはラッキーなことに窓際の席。台湾をかすめ、大陸を侵し、海南島を見下ろす筈が、青い海と白い雲しか見えない。7 時間強のフライトも終盤近く、厚い雲が途切れ、大海原に白砂の袴を履いた大きな緑の島がぼっかり浮かぶ。透き通った白い砂浜が、エメラルドの輝きを増し、その輝きが集って群青に変わる。白い雲が点々と黒い影を落とすその先、切り立った長い海岸線に寄せては返す白浪。座席のテレビ画面の地図では、中部ベトナムのダナン辺りから、インドシナ半島を横切り、ヤンゴンに向かう。水稲の三毛作、四毛作が可能な、平坦で細長いベトナムの沃野を一つ飛び、緑濃いジャングルが眼下に広がる。山裾を削って土色の川が巡りと出逢を繰り返しては成長し、を重ね、メコンの大河となる。大蛇メコンは黄土色と藍の波紋を重ねながら、南シナ海に消える。大蛇は山を削った土砂でベトナムのメコンデルタ、カンボジア、ラオスの広大な平原をつくり、同じ世界の屋根ヒマラヤに源流を持つ大河メナムとイラワジがタイとミャンマーの肥沃な大地をつくった。折から雨季の、全人口 6000 万人の 1 割が住むミャンマー第一の都市ヤンゴンは、まるで水に浮かぶかのように、眼下にある。川なのか？湖なのか？見分けがつかぬ泥水の先に広がる碧は海だろうか？商都ヤンゴンはイラワジ川を 20 キロほど遡った港町でもあるが、2 万トンクラスの船しか寄港出来ず、ヤンゴン近くで日本が計画するティラワ工業団地とティラワ大型港の開設が待たれているという。

成田のアナウンスではヤンゴンの最高気温 27 度ということで、まさか東京より涼しいとは？と思ったが、東京に負けず劣らず蒸し暑い。おまけに雨季ということで、雨の降り方は半端ではないようだ。飛行機の上からはヤンゴン全体が水に浮いているように見える。日本の ODA で大分前に出来たヤンゴン空港のエプロンには、大中小の旅客機がひしめき、手狭のようだ。総勢 7 人が、プラカードを持つ現地ガイドの元に集まる。日本円から現地通貨チャットに換えることは出来ないので、(4 泊) 2 日のビール代として、30 ドルをチャットに換える。最近書かれた「ミャンマー滞在記」でも、道は穴ボコだらけ、車は日本製の中古車が氾濫、日本の屋号をそのままにして走っている車も多いとのことであったが、空港からホテルまでの道は思いの外整備され、きれいな車が多い。急速に事情が変わっているようだ。(続く)

「ニッポン丸の行方」

・・・東大三鷹クラブ第 120 回定例懇談会のご案内

昭和 40 年入寮同期の宮原耕治君が、経団連副会長（経営労働政策委員長）職を 6 月に無罪放免になるらしい。民主党政権、東日本大震災、自民党の復権、アベノミクス、激動の中での労務賃金政策担当として激務をこなした 4 年間、ご苦労様でした。春闘という言葉が死語同然の昨今では有るが、デフレ下でのお役目は本当に気疲れする毎日であったに違いない。日本郵船社長に就任の平成 16 年から数えると 10 年超、この間あちこちの海外出張の傍、多い時は年間 50 回以上のゴルフをこなす多忙な毎日に加え、経済界の代表として TV や新聞で顔を見ることが多い昨今、もともと細身の体が益々痩せて行くよう心配したが、幸い健康体は立派に維持しているようである。

東大闘争前の平穏な学生寮に降って湧いた“バー事件”、週刊誌騒動に彼は寮委員長と

して矢面に立って対応した。私は総代会議長として裏から手助けをし、その後 41 年夏に寮委員長を引き継いだ。彼の優秀さは“特定銘柄”日本郵船の経営者、経団連副会長としての活躍で証明されており、多くを語るまでもない。むしろ我らにとっての宮原君は別人である。吉祥寺の“コンチェルト”で一日中モーツァルトに聞き入り学校に行きそびれたり、うたごえ喫茶にせつせと通っていた音楽好きの文化人で有った。東寮の廊下を、バリトンを響かせて通り過ぎる彼の美声は、あの頃は大したものだった。最近は島倉千代子が持ち歌と報じられているので信じがたい向きも多いだろうが。

件のバー事件に絡んでの退学処分者の復学に奔走した事は後日知った。彼は駒場で 1 年留年したが、その原因は大学闘争に有るのではなく、三鷹寮時代に知り合った令夫人とのデートに忙しかったからではと密かに疑っている。卒業間際に尚単位が足りない悪夢を未だに思い出す由（この点私も同じ）であるから、本郷でも勉学オンリーでなかったのは事実であろう。宮原君はロマンチストであり、ヒューマニストである。若き日のロマンチスト、ヒューマニストの宮原君が、この 10 年間の激動の日本をどう捉え、将来をどう見極めて居るのか？第一線を退くに当たっての総括を聞かせて貰えるのが楽しみである。

（文責 40 年入寮 辰 紘）

日 時：平成 27 年 5 月 25 日（月） 18 時 30 分～21 時（6 時開場）

場 所：学生会館本館 302 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会 費：5000 円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

連絡先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEN で（講師参加）行います。

◎第五回歌舞伎観劇会と新入生歓迎会（結びに代えて）

3 月 21 日（土）国立劇場で、三鷹クラブの 40 名で第 5 回歌舞伎観劇会。橋之介と錦之助の「梅雨小袖昔八丈…髪結新三」と吉原を舞台の花魁と若衆、奴による「三人形」の踊を、幕の内弁当付き 1 万円で楽しむ。🍀としては歌舞伎は 6 回目。最初、大の大人が手の込んだ学芸会をと感じのだが、段々面白くなり、所作、声色、色彩、歌舞音曲、勧善懲悪、色恋沙汰を、それとして楽しめるようになる。国立劇場の西澤君（94 年入寮）に多謝。

4 月 12 日（日）夕方、OB 会から差し入れの寿司桶持参で三鷹寮の新入生歓迎会に。集まりは例年より少ないが、3 月の追出しコンパが流れ、年末の勝部（S43 年入寮）邸での大クリスマス会以来連絡が途絶えていたので、一安心だ。留学生を誘っての 4 月 26 日（日）のガーラ湯沢スキーツアーと、🍀事務所での慰労会の目途もつき、嬉しい。新一年生は 18 歳、🍀68 歳。コミュニケーションが成り立つこと自体が不思議か？

若者の連絡手段は facebook から line へ、ガラケーの🍀が聞いても、自分のスマホの電話番号を知らない。90 年代に旧制一高の伝統を継ぐ濃密な人間関係の「東大三鷹寮」から、ワンルームマンションの「東大三鷹国際学生宿舎」へ変わり、寮生同士の人間関係は希薄になった。次代を担う日本人 400 名、留学生 200 名、内女子 200 名の、世界から集う若き俊秀達が、一人孤独に学ぶだけでなく、集っては切磋琢磨、ネットワークを形成、人間関係の大切さも学べる場であって欲しい！磨かれた才能と培われたネットワークを、平和で豊かな世界の実現に役立てて欲しい！そのために多少とも貢献出来ると嬉しい。（再見！）